

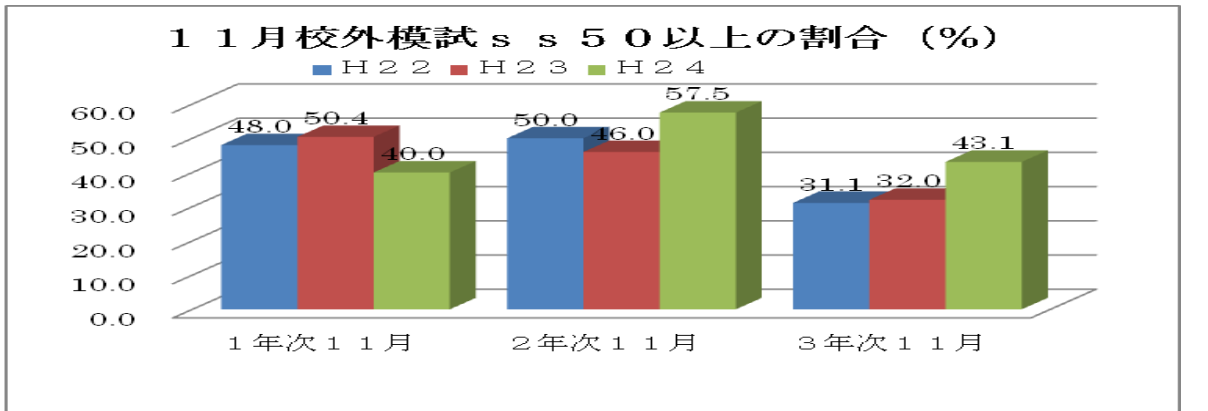
① 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上（言語活動の充実を盛り込む）

課題と目標（校長）

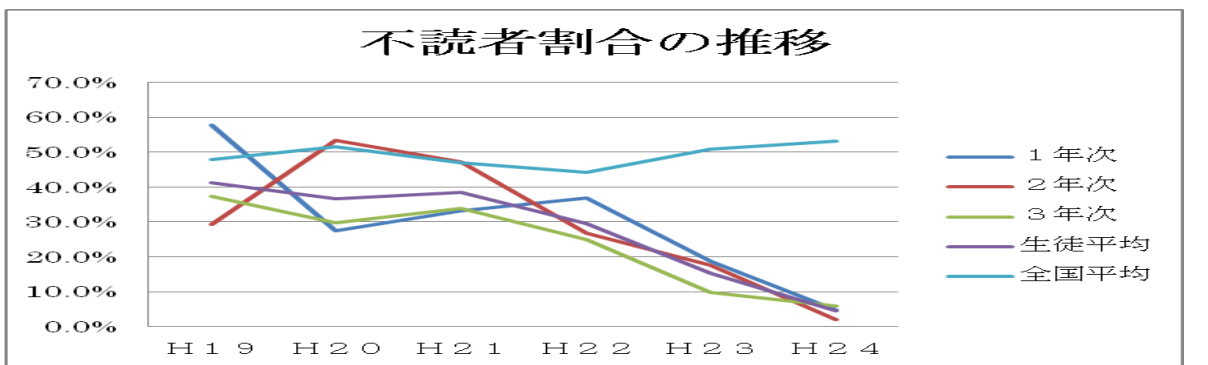
【具体的な取組の方法】
 ・新教育課程における数学・理科の手直しも含め、それ以外の教科の指導計画を作成する。 B【教務】
 ・新教育課程の実施に伴う習熟度別や少人数の授業実施科目について検討し決定する。 B【教務】
 ・言語活動の充実を目指した授業の実践例を集め、紹介すると共に校内での実践に取り組む。 B【教務】
 ・教科指導研修講座に参加して指導力を向上させる。 B【進路】
 ・国公立個別試験の問題研究を継続して行う。 B【進路】
 ・小中高の授業連携の仕組みを構築する。 B【総務】
 ・年間利用ゼロの生徒を減らす取り組みをする。 B【文化】
 ・グループ学習を取り入れ、生徒相互の話し合いの場を増やす。 B【国語】
 ・前期後期に各1回程度、定期考査の問題内容検討のための科会を開く。 B【地歴公民科】
 ・授業中での生徒の発表や説明の機会を増やすことにより学力の向上を図る。 B【数学科】
 ・質疑応答の機会を設けることで、コミュニケーション能力の育成を図る。 B【理科】
 ・自らの意見を発する力を身につけさせる。 B【保体科】
 ・单元ごとに意見発表の場を設ける。 B【芸術】
 ・毎回音読、発信の活動を入れる。 B【英語科】
 ・ロールプレイやディベートを通じて、生徒主体の授業を展開する。 A【家庭科】

【プロセス】
【教務課】
 ・授業研究部会を2回、教育課程委員会を2回開催した。H25年度の年間指導計画については順調に進められている。
 ・H23年度に引きつづき、第1回公開授業期間（6/18～6/22）を設け、期間中の授業参観は自由に行えるものとして実施した。また期間中、特に「言語活動の充実」をテーマとした研究授業を各教科で1つ実施した。【数 6/19 国 6/21 数・理・家 6/22 体 6/26 芸 7/12】
 第2回公開授業期間（11/15～11/21）を設け実施した。「言語活動の充実」をテーマとした研究授業では、今回予め指導案を配付して実施した。【国 11/15 地歴 11/22 数 11/21 理 11/20 体 11/20 芸 11/21 英 11/20 家 11/16】
【進路課】
 ・授業見学 倉敷鷺羽 6/4 一宮 6/5 備前緑陽 6/8 倉敷商業 6/19 天城 7/18 宇治 10/16 林野 10/18 落合 10/20 玉島 10/22 古城池 10/24 新見 10/25 瀬戸 11/12 備前緑陽 11/14 岡山城東 11/28 総社南 12/11
 ・教員研修プログラム 河合塾（1名） 駿台（6名） 内訳（国語1名、地歴1名、数学1名、物理1名、化学1名、英語2名）
 ・教員研修プログラムに参加しレポート（A4 1枚）を提出し閲覧した後保存した。
 ・H23年度に引き続き岡山大学入試問題の解答・解説の冊子を作成した。3年次生へは希望者に、1・2年次生にはHRに配付した。
【総務企画課】
 ・6月に高梁中学校と授業連携に向けて担当者同士が話しをすることができた。7月に高梁小学校に赴き、授業見学を相互に行えるよう、協力することを確認した。
 ・授業見学 川上中学校研究授業 6/4 高梁中学校研究授業 10/11, 11/14 川上小学校 11/9 高梁幼稚園 10/18（15名参加）
 ・出前授業 川上中学校（英・家）7/3 成羽中学校（数・理）11/13 高梁北中学校（英）11/19 高梁東中学校（英）12/19
 ・H23年度に改善された項目による授業アンケート（後期）を実施し、集計結果データを提示した。
【文化課】
 ・読書月間キャンペーン（5/21～6/20, 10/22～11/21）を実施した。
 ・ゼロゼロキャンペーン～1年間図書館で本を1冊も借りない人をゼロにしよう～を実施（9～）し、12/10までの調査結果では、1年13人、2年3人、3年12人になり、全校に占める割合は4%である。
【家政科】
 ・ロールプレイなどの生徒主体ということを意識した授業展開ができ、生徒の反応もよく充実し授業展開ができている。

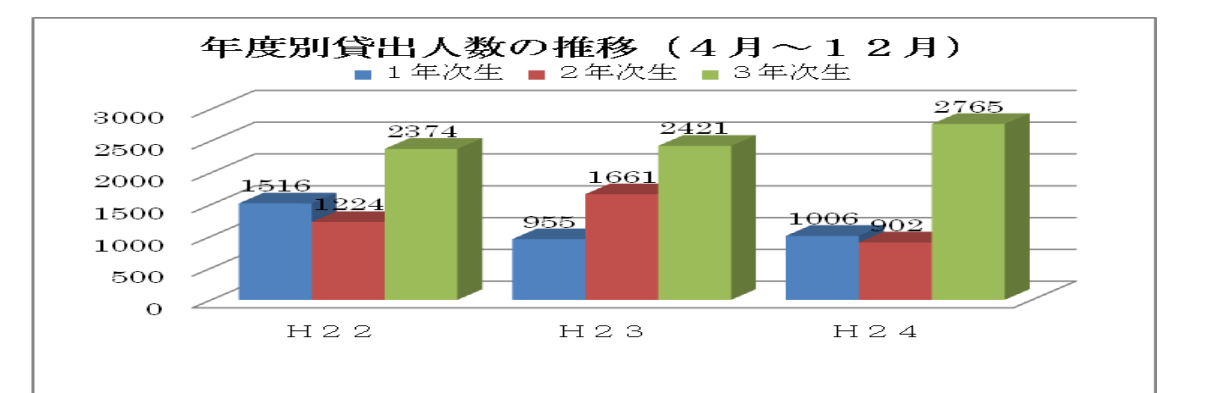
【結果等】
【教務課】
 ・6月：担当教科・他教科について、少なくとも各1時間の見学を目標とし授業見学を実施した。12人が目標を達成した。担当教科のみが19人、他教科のみが6人であった。授業見学ができない先生のために、ビデオ撮影をして見えるようにした。
 11月：担当教科について、出張者以外は1人を除き全員授業見学ができた。他教科見学数が大きく伸びた。（1時間15人、2時間12人、3時間3人、4時間以上2人）
 ・6月の反省から、放課後教科による協議時間の確保が難しいので、後期は授業時間中に確保した。
 ・『授業見学は授業力向上に役立ったか』（アンケート）に対し、全員が『役立つ』と回答した。
 ・『言語活動の工夫について成果はあったか』（アンケート）に対し、8割強が『あった』と回答した。
【進路課】



【文化課】H19～24年度の不読者（H24年度は4～12月）【上段】年度別貸出数の年次比較【下段】



《不読者の割合に関しては、1年次生のオリエンテーションで全員借りた1冊については除く》



○言語活動に対する意識付けはできた。更に具体的取り組みを進める。
 ○他教科も含めて授業見学は定着した。見学後の意見交換や教科としての研究を更に進める。
 ○校外での授業研修へ積極的に参加できた。教科や全体での共有は不十分。
 ・A4 1枚にまとめて報告
 ・教科会議等での共有
 ○個人の研修は成果が上がりつつあるが、教科等組織としての研究が望まれる。
 ・教科会議の充実
 ○進路研修会にほぼ全員の教員が参加できるようになったが、意見交換の活性化まではいかない。
 ・研修会での積極的な発言を促す。
 ☆校外模試偏差値50以上の割合
 ・1年 50%
 ・2年 45%
 ・3年 40%
 ☆国公立大学合格者数
 50

② 学習習慣の確立

課題と目標 (校長)

具体的な取組の方向

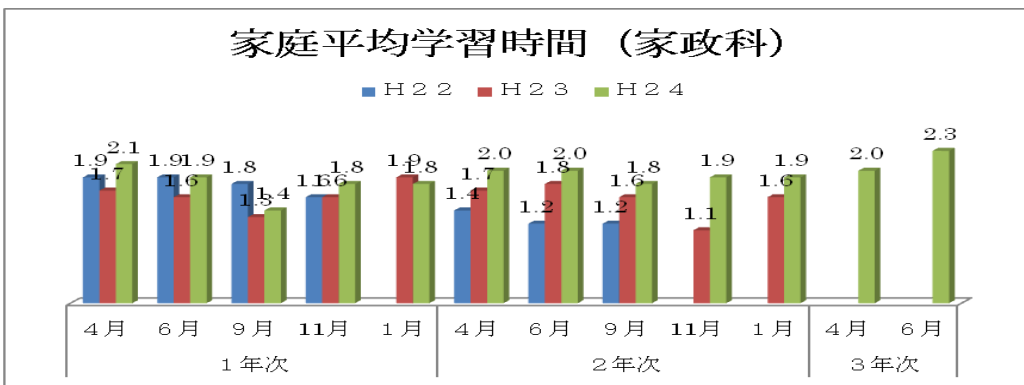
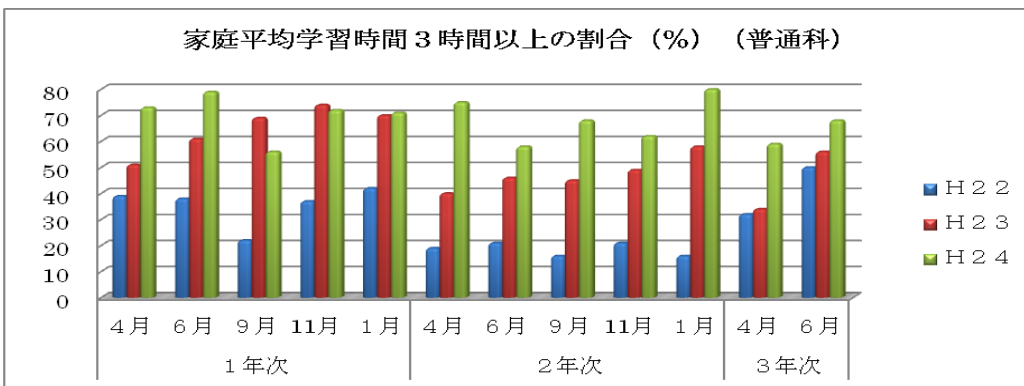
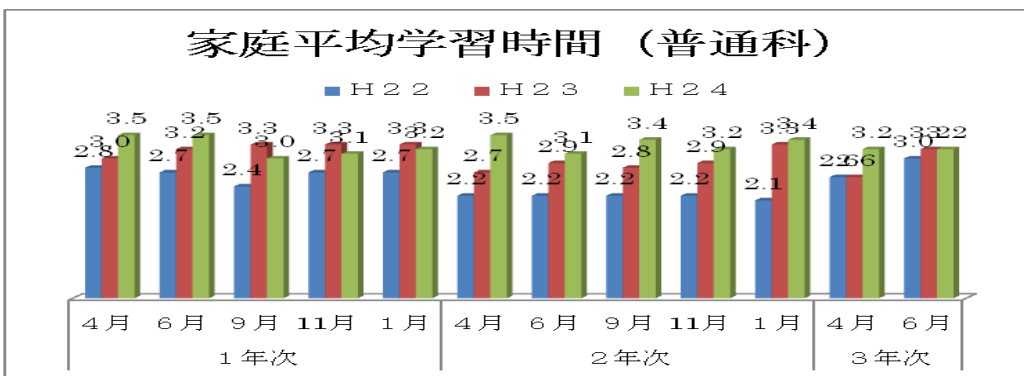
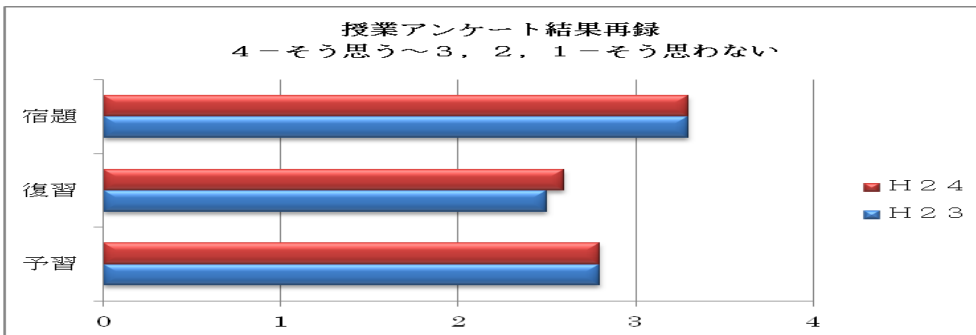
- ・家庭学習時間が3時間を超える生徒の割合が6割を超える。 B【進路】
- ・「進路のてびき」を発行。 B【進路】
- ・授業ごとの予習・復習となる学習や週末課題を課する。 B【国語】
- ・1及び2年次生では、平日課題及び週末課題を課し学習時間の確保を図る。 B【数学】
- ・課題の提出状況を把握するための一覧表を週単位で提示し、状況の好くない生徒には随時面談を行い指導する。 B【理科】
- ・復習事項及び内容を明示し小テストで理解及び定着度を把握する。 B【英語】
- ・気持ちのよい「先言後礼」の挨拶を徹底する。 B【家政科】
- ・教科担任と年次との連携を密にして指導にあたる。 B【1年次】
- ・生徒の日常生活がよく分かるような年次通信を発行するよう心がけ、家庭の理解・協力を得られるようにする。 B【2年次】
- ・年次通信の内容を工夫し、時期に応じて3年次にふさわしい学習習慣の確立について保護者との積極的な連携を図る。 B【3年次】

【プロセス】

- 【進路課】**
- ・学習実態調査を実施(4・6・9・11・1月)した。但し、3年次生は4月・6月実施のみ。
 - ・1・2年次団による「ミニ検討会」(12月末)を行い、学習成績と学習状況、進路志望状況等の共通認識と今後の指導について議論した。
 - ・「進路の手引き」(天分發揮)は、3年次生の出願手続きのマニュアルとして機能している。
 - ・H23年度に引き続き「合格体験記」(向上進取)を発行し全員に配付した。
 - ・H25年には3回目を迎える学習合宿について、運営方法についての課題について議論した。
- 【家政科】**
- ・「先言後礼」の挨拶については、年次が上がるにしたがい気持ちの良い挨拶ができるようになってきた。
 - ・「気持ちの良い先言後礼の挨拶を行うことができる」の項目について、「できる」答えた生徒は、1年次32%、2年次41%、3年次61%であった。
- 【1年次】**
- ・夏課題の提出指導と同様に冬課題の提出状況を学年で把握し、教科・担任・学年全体で未提出者の指導にあたった。提出状況は、家政科94%・普通科96%であった。
 - ・家庭学習平均時間は、家政科・普通科それぞれ、4月(2.1, 3.5)・6月(1.9, 3.5)・9月(1.4, 3.0)・11月(1.8, 3.1)・1月(1.8, 3.2)であった。
- 【2年次】**
- ・年次通信を考査終了後に定期で発行し家庭への情報発信を行ったが、さらに内容の工夫派必要である。
 - ・夏課題の提出指導と同様に冬課題の提出を年次として行き、提出状況は全体的に向上した。
 - ・家庭学習平均時間及び家庭学習平均目標時間普通科3時間・家政科2時間以上の割合については、普通科・家庭科ともにほぼ目標を達成している。
- 【3年次】**
- ・通常の年次通信に加えて、保護者用年次通信を4回発行した。
 - ・普通科の家庭学習平均時間について普通科が3.1時間である。その他の目標は、普通科・家政科ともに目標を達成している。

【結果等】

【進路課】



- 家庭学習時間の増加に一定の成果がみられた。さらに工夫して定着させる。
 - ・年次通信等を工夫し、家庭の理解や協力を得られるよう連携をはかる。
- 家庭学習時間が目標を下回る生徒には、面談や継続的な声かけを通して、学習状況を把握するとともに学習意欲を喚起する。
- 平均家庭学習時間
 - ・家政科 2.0時間以上
 - ・普通科
 - 1・2年 3.5時間以上
 - 3年 4.0時間以上
- 家庭学習時間3時間以上
 - 普通科 60%以上
- 自己評価アンケート
 - 予習・復習をしている
 - 普通科 3.0以上

③ 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動の工夫。

課題と目標（校長）

【具体的な取組の方向】
 ・各課や生徒会・委員会と連携したLHR作り。 B【教務課】
 ・生徒会執行部から各委員会へ活動内容を提案し、企画を実現させる。 A【生徒】
 ・オープンスクールでは、生徒が主体となり運営できる場を提供するために、事前指導を充実させる。 B【総務企画】
 ・「地域で育つ」視点から、栄町まちづくり事業等に協力する。 B【総務企画】
 ・学校周辺の清掃活動を行う。 B【厚生環境】
 ・地震を想定した避難訓練を実施し生徒が自主的に危険回避できるような心構えを養う。 B【厚生環境】
 ・地域との交流を充実させる。 A【家政科】
 ・寮長、副寮長、舎監長による情報交換を定例化（月1回）し寮長及び副寮長を中心とした、生徒による運営を活発にする。 B【寄宿舍】

【プロセス】
【教務課】
 ・研究指定を受けた「人権教育係」と連携して、クラスを解体し、年次や科の枠を超えた16のグループで1つのテーマを話し合う縦割りLHRを2回実施した。（1回：松籟祭，2回：いじめ）縦割りLHRの実施は、今後のLHR作りのよいステップとなった。
【生徒課】
 ・松籟債（文化祭・体育祭）の運営は、生徒会執行部から各委員会へ活動内容を提案し、企画を実現させている。
 ・文化祭における全校制作は、全校生徒に貼り絵を呼びかけ「夜警」を完成させた。
 ・吉備国際大学・高梁城南高校・高橋日新高校・本校生徒会で恒例のキャンドルナイトを7/27に紺屋川沿いで実施した。
 ・学校行事に対する生徒の満足度は89%と高かった。
【総務企画課】
 ・オープンスクールのスタッフをボランティアで公募し、92名の協力を得られた。（昨年は90名）中学校別交流会について、各出身中学校の代表者を決め、代表者を中心に企画運営を行った。また事前指導を3回行い、前日には校内清掃とリハーサルも行った。
 ・「栄町まちづくり事業」は、9回実施した。将棋部が毎月1回（4月～11月（計6回実施）但し8月を除く）活動をしている。また、「わくわく子どもフェスタ」（6月16日）に参加し、牛乳パックなどの廃物を利用しておもちゃづくりを行った。「高校生と栄町商店街のイベント」では、ボランティアスタッフによる「高校生カフェ」で高梁の紅茶を市民に紹介したり、ダンス部・書道部・コーラス部・吹奏楽部によるパフォーマンスを行った。（11月24日）
【厚生環境課】
 ・校内に『リサイクルボックス』を20カ所（昨年14カ所）設置し、美化委員が月に2回（第2・4金曜日）古紙回収を実施している。全校的な運動として定着している。
 ・学校周辺の清掃を3回行った。
 ・地震を想定した避難訓練（地震の後火災が発生したという想定）を11月12日に実施した。
【家政科】
 ・「ひなまつり」のバザーへの出店、「センター祭」（たかはし障害者支援センター）及び「あんどん祭」（さくらばホーム）でのボランティア活動、交通安全マスコット配り、生衛業後継者育成支援事業、「子どもフェスタ」などに参加し、地域とのふれあいに生徒が主体的に取り組んでいる。「充実した地域との交流ができた」に対し、「できた」と答えたのが、1年71%、2年88%、3年97%であった。
 ・平成24年度家政科展を成功裏に終わることができた。
 ・「全国産業フェア」では、販売部担当校として職責を果たした。
【寄宿舍】
 ・各寮での反省会は毎週木曜日にできた。情報交換については、寮長とはできているが副寮長とはなかなかできていないのが実情である。

【結果等】
【生徒課】
全校制作「夜警」 **紺屋川のキャンドルナイト**



文化祭・体育祭の入場者数

	文化祭入場者数	体育祭入場者数
平成20年	417	—
平成21年	425	—
平成22年	526	—
平成23年	546	132
平成24年	517	141

【部活動等成績】
 ソフトボール部
 ・第30回全国高等学校男子ソフトボール選手権大会 第3位
 ・平成24年度岡山県高等学校春季ソフトボール選手権大会 優勝
 ・第36回中国高等学校男子ソフトボール選手権大会 準優勝
 ・平成24年度岡山県総合体育大会ソフトボール競技 準優勝
 ・平成24年度岡山県高等学校夏季ソフトボール選手権大会 準優勝
 ・第67回国民体育大会ソフトボール競技 岡山県選抜 5位入賞
 赤木文弥（主将） 川上賢人 須山元嗣 三村友洋 上杉球太 亀山健吾 小見山拓也 平方健太
 ・平成24年度岡山県高等学校秋季ソフトボール選手権大会 準優勝
 ・第16回中国高等学校男子ソフトボール新人大会 準優勝
 ・平成24年度岡山県トップアスリートスポーツ奨励賞
 コーラス部
 ・第79回NHK全国学校音楽コンクール 銀賞
 ・第65回岡山県合唱コンクール 金賞
 ・第51回中国合唱コンクール 高等学校部門 Aグループ 銅賞
 ダンス部
 ・全国高等学校ダンスドリル冬季大会2013出場（平成25年1月）
 家政科
 ・神戸ファッション専門学校2012 全国高校生デザイン画コンクール 入賞 山本 海南美
 ・岡山県酪農乳業協会 牛乳・乳製品利用料理コンクール岡山県大会 優良賞 大月 佑莉
 ・第59回岡山県高等学校家庭クラブ研究発表大会 備中支部大会 最優秀賞 河合 千穂（県大会優良賞を受賞）

○生徒会執行部を中心とした自主的な活動が定着してきた。古紙回収など委員会活動との連携も進み始めたが、十分ではない。
 ・生徒が自主的に運営する学校行事の一層の推進
 ・生徒会執行部と各種委員会、家庭クラブ等との連携の更なる推進
 ・全校を巻き込んだ自主的活動の工夫
 ○学校行事、部活動、LHR、総合的な学習の時間などいろいろな場面で生徒の自主性を育む取り組みを工夫する。
 ○生徒が主体的に関わることができる地域との連携活動を推進する。

④ 情報を共有し課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。

課題と目標 (校長)

【具体的な取組の方向】

- ・申し合わせ事項の徹底と見直しを図る。 B【教務】
- ・学校管理システムについて、情報係と連携し運用上の課題解決を適宜行う。 B【教務】
- ・課内の係会議の充実及び分散会議で情報交換の徹底・効率化を図る。 B【生徒】
- ・進路指導の方向性を共通理解するために各年次による進路通信を発行する。 A【進路】
- ・定例の進路課会議で課題の発見と対策を検討し、共通理解を図る。 A【進路】
- ・文書や資料、視聴覚機器を整理し保管場所を明らかにすることで情報の共有を図る。 A【総務】
- ・三年間で生徒を育て鍛えるために必要な情報を共有する。 B【1年】
- ・朝の打ち合わせ会で、生徒の情報交換を充実させる。 A【2年】
- ・1日前までに資料準備を徹底し、年次会議の効率化を図る。 A【2年】
- ・実力考査や模擬試験の後検討会を開き、共通認識を持ち、全員で指導にあたる。 A【2年】
- ・進路課と連携を図り情報を年次団全員で共有できる体制作りを行うことにより、生徒の進路実現に組織的に取り組む。 A【3年】
- ・高梁高校のブログを30回以上タイムリーにアップする。 B【家政科】
- ・事務室内朝礼の充実を図る。 A【事務室】
- ・証明書の発行などマニュアルを整備し、担当者不在でも迅速な対応ができるようにする。 A【事務室】

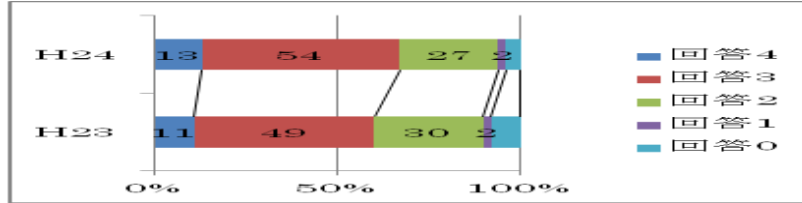
【プロセス】

- 【教務課】
 - ・毎週の会議で各項目について随時チェックし、情報の共有と組織的な見直しを行った。申し合わせ事項の見直しはできたが、徹底というところまではいかない。
 - ・要望していた評定平均一覧の出力機能が加わり、併せて他の教務関係処理も順調である。
 - ・成績処理マニュアルの正確性を高めることができた。
- 【生徒課】
 - ・係ごとの小会議が盛んに行われ仕事の効率化が図られた。
 - ・他課との情報交換は不十分である。
 - ・課内での満足度調査では、「マナー指導」・「情報の共有」についてそれぞれ75%・67%であった。
- 【進路課】
 - ・年次進路通信（普通科・家政科）を定期的に発行できた。（1年次10号・8号 2年次5号・5号 3年次普10号・1号）
 - ・進路通信（普通科・家政科）は（23号・14号）発行できた。
 - ・定例の進路課会議を22回実施して、共通理解を図っている。
- 【総務企画課】
 - ・視聴覚機器の調査と整理を行い保管場所を明らかにすることができ、課内の仕事をスムーズに進めることができた。
- 【1年次団】
 - ・職員室内の年次配置をまとめるようにしたために、情報の共有が容易になった。
 - ・12月には進路検討会（「ミニ検討会」）を実施し、学年団で生徒進路志望状況について情報を共有した。
- 【2年次団】
 - ・朝礼を通じ、必要に応じて生徒に関する情報交換ができています。
 - ・年次会議は1時間半程度で収まっている。
 - ・実力考査や模擬試験ごとに小検討会を行うことにより、生徒の進路志望について年次全体としての共通認識がもてている。
- 【3年次団】
 - ・入試関連の情報については、朝礼で説明をしたり専用のフォルダーに入力するなどして共有化ができ、生徒の進路実現に向けて組織的に取り組むことができた。
- 【家政科】
 - ・家庭クラブ新聞「まつぼっくり」をカラーで拡大印刷し、校外に掲示することは計画どおりできた。
 - ・HPのブログは、後半なかなかタイムリーにはアップできなかった。
- 【事務室】
 - ・事務室内得朝礼でも情報交換等を行うことにより、情報の共有ができた。
 - ・マニュアル整備にあわせ証明書交付願の様式改正やHPの更新を行うことにより、迅速な対応ができるようになった。

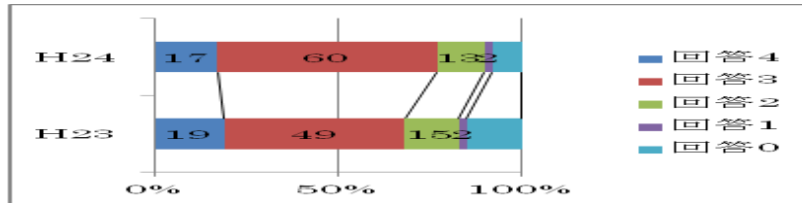
【結果等】

【総務企画課】 授業アンケート結果【教職員】【生徒】【保護者】

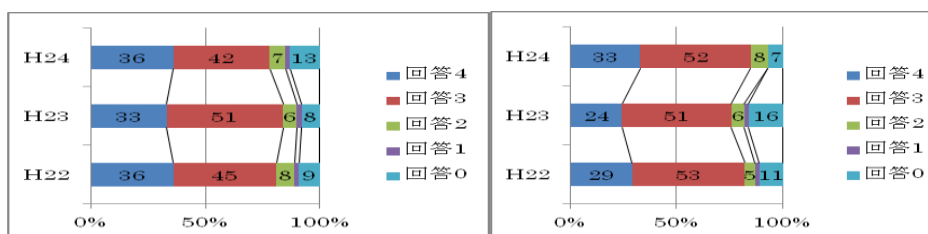
・校内の情報は共有できていると思う【教職員】（4そう思う 3～2 1そう思わない）



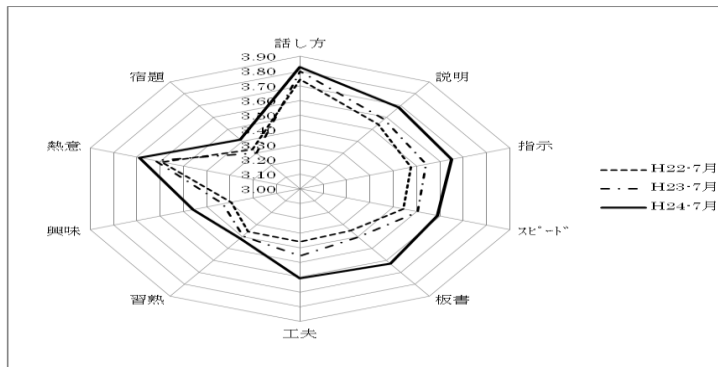
・授業アンケートの結果が授業改善のために活用された【教職員】



・高梁高校は、自分を成長させてくれる学校だと思う【左：生徒 右：保護者】



【総務企画課】 授業アンケート結果【生徒による授業評価】



【全体】

- ・課長連絡会を25回、年次主任会を4回実施し、学校運営について連絡調整及び課題の共有を行った。
- ・全教科フォロー会を8月の下旬に行い、共通の課題を明らかにした。
- ・分掌フォロー会及び年次主任会を10月上旬から中旬にかけて行い、学校経営目標に沿って、課・年次主任会における各自の目標達成状況を報告し、共通理解を図り、校後期の課題を明らかにした。
- ・2月中旬に校内評価委員会を開き年度の反省および評価を行った。

○各分掌、年次内の情報の共有は進んだが、分掌間、年次間の情報の共有には更なる工夫が必要である。

○各分掌、年次の組織的な動きは進みつつある。組織的な取り組みを一層進め、課題の発見と解決のための議論を喚起する。

- ・課長連絡会 (週1回)
- ・主任連絡会 (月1回)
- ・教科及び分掌フォロー会での組織的な取り組みの確認

○自己評価アンケート (情報の共有) 「どちらかと言えばそう思う」以上 80%

☆学校満足度 「どちらかと言えばそう思う」以上 90%